

平成26年度

学校自己評価表(報告)

学校運営計画	
学校運営方針	<p>保護者・地域の期待に応え、豊かな人間性と創造力を身につけ、国際的な視野をもち、社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。</p> <p>そのために、「学校は学ぶところ」という基盤に立ち、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。</p> <p>(1) 自立して生きるための基礎となる学力 (2) 他者と協力して生きるための豊かな心 (3) 自己実現のために必要な気力及び体力</p>
平成25年度の状況	<p>今年度の重点目標</p> <p>学力の伸長及びキャリア教育の充実 (中高一貫教育を生かし、優れた専門性の基礎づくり)</p> <p>今年度の重点目標</p> <p>具体的目標</p> <p>家庭学習時間の目標達成率は、前期課程67.0%、後期課程23.8%であった。 キャリア教育として、講演会、職場体験、社会研修旅行等を実施した。</p> <p>・家庭学習時間の目標達成率100% ・課題提出率90% ・勤労観・職業観育成のための体験活動の充実 ・講演会の充実</p>
大学等進学率87.5%、達成率91.3%、国公立大学進学率38.9%、難関大学進学率5.6%であった。	<p>全員の進路希望実現</p> <p>・大学入試センター試験における国公立大学型受験率90%以上 ・国公立大学進学率50%以上 ・難関大学進学率10%以上</p>
「挨拶ゾーン」を設け、当番の生徒を割り当てて朝の挨拶運動を実施した。 LFP(リーダーシップ・フォロアーシップ・プロジェクト)は8回実施した。	<p>公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 (高い倫理性の基礎づくり)</p> <p>・いじめ発生件数ゼロ ・不登校生徒数ゼロ ・挨拶・清掃の励行 ・自主的な時間管理(集会の5分前集合) ・LFPの充実 ・人権学習の充実(人権教育・同和教育研修会の実施)</p>
北信越大会に陸上部、水泳部、ソフトテニス部が、全国大会に囲碁・将棋部、日本文化部(百人一首かるた)が出場した。	<p>心身鍛錬及び健康管理の充実 (自己実現に必要な気力・体力づくり)</p> <p>・体力テストのTスコア全学年50以上 ・部活動加入率前期課程80%以上、後期課程70%以上 ・発達段階に応じた保健講座の充実 ・チャレンジウォークで全員完歩</p>
志願児童は80人であった。 学校説明会は校外で2回、校内で2回実施し、小学校への訪問説明会は24校で実施した。	<p>志願児童数の増加及び学校PRの充実</p> <p>・志願児童数100人 ・学校説明会及び小学校への訪問説明会の充実 ・学校ホームページの活用</p>

分掌	重点目標	具体的目標	具体的方策	評価
教務	学力の伸長・キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育校の強みを活かした長期的な「総合的学習の時間」や学校行事の見直しを継続して検討する。 ・LFPにおける課題研究活動、発表する活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善が必要と思われる行事について見直し案を検討し提案をはかっていく。 ・LFPに「海外研修旅行」をテーマとした課題研究、発表活動を取り入れる。 	A
	全員の進路希望の実現	長期休業中(夏・冬)の登校学習を実施し、生徒の学習への取り組み強化をはかる。	各学年部・教科と連携をはかり、生徒が効果的な学習が行われるように実施計画の立案をはかる。	A
	公共心・規範意識の育成、人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・LFPの内容の充実と活動の定着化 ・リーダーシップ、フォロアーシップの意識の定着 ・思いやりの心やボランティア精神を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間の活動で全員が必ずリーダーとフォロアーになる機会をつくる。 ・年間の活動の中に流れをつくり、班の絆をより深める。 ・地域貢献活動の充実をはかる。 	B
	心身鍛錬の充実	チャレンジウォークの運営面の改善をはかり、生徒の気力・体力の向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が自分の限界に挑戦できる適切なコースづくり。 ・事前指導の充実を図り、当日の業務に支障がないようにする。 	A
	学校PRの充実	学校のPRに効果的な見やすいHPとするため、レイアウト等の改善をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校のPRとして効果的な行事などの情報を、迅速に掲載する。 ・定期的に更新をする。 	C
進路指導	学力の伸長・キャリア教育の充実	6年間を見通した進路指導計画を作成し、実践する。	学年ごとの年間計画を生徒に提示し、すべてを確実に実行する。	B
		進路希望調査を実施し、希望に合わせた進路指導を行う。	調査結果を受けて、個別の進路指導を最低でも年2回行う。	B
		キャリア教育を見据えた指導内容を各学年部と協力し、実践する。	キャリア形成に関する講演、体験学習等を発達段階に応じて計画的に行う。	B
		進路講演会、高大連携、職業理解教育など、生徒に適切な進路情報を提示する。	生徒が自身の適性や興味・関心を理解し、進路決定できるようにする。	B
		土曜講座、課外学習、学習合宿などを行い、生徒の学力向上に努める。	80%以上の生徒が有意義に感じ、学力が向上したと感じる指導をする。	A
		全国模試等を実施し、生徒の学習到達度を客観的に測る。	学習到達度を測り、さらにそれを授業等の改善に活かす。	A
		家庭学習調査を毎週行い、適切な指導を加えて家庭学習の定着を図る。	目標とする家庭学習時間に到達していない生徒を指導し、達成者の割合を高める。	B
		授業アンケートの結果を分析し、授業公開・相互評価を行い、指導力の向上に努める。	アンケートや公開授業の感想等を分析し、授業改善に努める。	A
学年便りなどを通して、生徒、保護者の進路意識啓発と情報提供を行う。	時機を得た進路情報を発する。	B		
生徒指導	公共心・規範意識の育成	いじめゼロ	いじめ件数ゼロ。	B
		不登校ゼロ	不登校30日以上がゼロ。	C
		明るく元気な挨拶が飛び交う学校づくり	「あいさつに関するアンケート」で「自分から挨拶をする」が70%以上。	B
		清掃活動の充実	環境福祉委員会の清掃状況調査結果で達成率が80%以上。	A
		遅刻指導の徹底・遅刻ゼロ	遅刻者ゼロの日数が各月、授業日の90%以上。	B
		交通安全指導の徹底・交通事故ゼロ	警察が扱う自転車の交通事故件数ゼロ。	A
		服装・身だしなみ指導の徹底	風紀委員会の朝の調査で、各学年正しい服装の生徒が90%以上。	A

1学年	学力の伸長	家庭学習の時間を確保した生活リズムを各自が確立し、授業の予習復習を習慣化する。	終学活を利用して「その日の学習計画」を立て、実行する。	B	A
		毎日の課題の提出を徹底する。必要に応じて個別指導を実施し学力の定着を図る。	課題解消のための放課後や休日学習会を周知し、定期的に行う。	A	
	公共心・規範意識の育成	係・清掃・給食・委員会など各自の事に責任を持って行き、進んで協力し合う。また、学級・学年単位で仲間作りを意識的に組織する活動を取り入れる。	給食や清掃当番をきちんと行う。保健講座と連携し、「学校生活改善プロジェクト」に取り組む。毎週、学年朝会を行う。	A	
	キャリア教育の充実	あらゆる角度から自己理解を進めたり、各種講演会や企業訪問などから働くことや学ぶことの意義を考えたりしながら、各自の将来設計に目を向けさせる。	総合的な学習の時間で「大学見学」「職場見学」を行う。	A	
学力の伸長・キャリア教育の充実	家庭訪問や面談・PTA活動等を通して、家庭との連携をとる。学年便りを定期的に発行し学校・学年・学級の様子を知らせる。	学年便りを毎週発行する。	A		
2学年	学力の伸長	計画的に課題に取り組む姿勢を養い、授業の予習復習を習慣化する。また、漢検、数検、英検などの各種検定の受検を促す。	家庭学習を2時間以上する生徒が8割以上。	B	A
		毎日の課題の提出を徹底する。必要に応じて個別指導や再テストなどを実施し学力の定着を図る。	生徒への授業アンケートで「まったくわからない」が0%。	B	
	公共心・規範意識の育成	係・清掃・給食・委員会など各自の事に責任を持って行き、進んで協力し合う。また、学級・学年単位で仲間作りを意識的に組織する活動を取り入れる。	「学校生活アンケート」等で「学校生活が充実している」が8割。	A	
	キャリア教育の充実	職業調べや職場体験学習などにより、様々な職業について知識を得、働くことや学ぶことの意義を考える。また、模試や補習などを実施し、着実に進路実現ができる学力を培う。	生徒へのアンケート・感想などから、肯定的な評価が8割以上。	A	
学力の伸長・キャリア教育の充実	家庭訪問や面談・PTA活動等を通して、家庭との連携をとる。学年・学級便りを定期的に発行し学校の様子を知らせる。	学年便りの発行回数が年間30回以上。	A		
3学年	学力の伸長・キャリア教育の充実	SATIに向けて基本的な生活習慣を身につけさせ・学習習慣の確立を図る。	「生活記録表」をもとに、家庭学習時間の目標を達成している生徒が80%。	C	B
		大学見学を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。	課題提出率90%	B	
	全員の進路希望実現	SAC, SATを通して、前期課程の学習内容を確実に定着させる。	SAT一次合格者70%以上、最終達成者100%。	D	
			「学力推移」で偏差値54以上が25名以上、46以上が40名以上。	B	
	公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。	「学校生活アンケート」、教員の見取り等で、いじめゼロ。	A	
		明るく元気な挨拶、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。	「生徒アンケート」等で肯定的申告80%。教員の見取りも加味。	B	
心身鍛錬及び健康管理の充実	文武両道を目指し、積極的に部活動に参加する生徒を育成する。	部活動(社会体育も含む)加入率75%以上。	B		
		「心と体の健康アンケート」等で「部活(放課後)の時間が充実している」が80%。	B		
4学年	学力の伸長及びキャリア教育の充実	「三点固定」指導を軸に基本的な生活習慣・学習習慣を確立させる。	「生活記録表」をチェックし、生徒に家庭学習時間の目標達成を促す。	C	B
		将来の進路の参考となるよう、進路講演会を実施する。	課題提出率が90%以上となるよう、生徒に繰り返し粘り強く指導する。	A	
	全員の進路希望実現	進路学習の充実や文理選択の決定を通じて生徒の進路意識を明確にさせ、志望校決定に結びつけさせる。	生徒の意識を啓発する内容となるよう、計画・実施を行う。講演会実施後に教員が内容等について評価する。	A	
			志望校・志望分野決定者が100%となるよう生徒に指導する。	A	
	公共心・規範意識の育成	教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。	「進研模試」で偏差値58以上が35人以上、偏差値50が50人以上になることを目指し、事前・事後の指導を行う。	B	
		教室内の整理整頓・清掃活動の充実を通して、生徒の公共心を培う。	生徒への指導や教員の見取り等で、いじめを防止する。「生徒アンケート」も実施する。	A	
心身鍛錬及び健康管理の充実	服装・身だしなみ指導、規則の遵守を徹底する。	清掃を徹底するとともに、各クラスに整美係を設け、教室内の美化に努めさせる。	B		
	知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。	LHRやSHRの時間を利用し、規則の順守について指導する。	B		
5学年	学力の伸長及びキャリア教育の充実	「三点固定」指導を軸に望ましい生活習慣を確立させ、週30時間の家庭学習を習慣化させる。	「生活記録表」をもとに、家庭学習時間の目標を達成している生徒が45人(60%)以上。	C	B
		社会研修旅行及び事前・事後学習を通じて、進路意識を明確にさせ、進路実現に向けた態度を育成する。	志望校・志望分野決定者が100%	A	
	公共心・規範意識の育成	計画的な学習を行わせ、進路希望実現のための学力の育成に努める。	「進研模試」で偏差値58以上が37人(50%)以上。	B	
		教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学級・学年づくり、集団づくりを行う。	「学校生活アンケート」、教員の見取り等で、いじめゼロ。	A	
心身鍛錬及び健康管理の充実	欠席・遅刻・早退等のない学年・学級づくりを行う。	出席率99%以上。遅刻ゼロの日数が、毎月授業日の90%以上。	A		
6学年	学力の伸長	学習計画を立て、教科ごとに目標を設定させて学力向上を図る。	大学等進学において、第1志望を実現するよう、面談や指導を行う。	B	B
		学習への動機付け。	適切な学習計画を提示し、課題提出率が上がるよう、働きかけをする。	B	
		自主自律による課題提出を促し、学習時間の伸長を図る。	全員卒業に向けて、学年末の欠点者が0人になるよう、細かく配慮する。	C	
	公共心・規範意識の育成	遅刻・早退・欠席の防止	9月末までに週45時間以上の学習を行った者が50%以上になるよう、記録表等で実態を把握する。少ない生徒には、励まし、増える努力をさせる。	C	
心身鍛錬の充実	正しい制服の着用、教室の整理整頓・清掃など、高い規律を維持させる。	学年末出席率日数で98%以上になるように、学年で気をつける。	A		
	体育祭・翔洋祭の成功、チャレンジウォーク全員参加など、一丸となる人間関係を構築させる。	全員が達成できるよう、学年で、呼びかけ、違反者には、指導を与える。	B		
		全員が積極的に参加するよう、担任を中心に働きかける。	C		

国語	学力の伸長	小テストなどでつまずきを早期に見見する。	合格率75%、不合格者への手当て100%	B	B
		定期テスト後、振り返り学習や補習・再テストをする。	実施率100%	B	
社会	学力の伸長	小テストなどを実施し、教科書内容の確実な定着を図る。【前期課程】	授業・補講での指導を通し、3年生の50%の生徒がSAT本試験で達成。追試験後に合計80%の生徒が達成する。	D	C
		国公立大学入試に対応できる実力の育成を図る。【後期課程】	授業・補講での指導を通し、5年の進研模試で偏差値58以上の生徒数が50%以上。センター試験で7割以上得点した生徒数が50%以上。	C	
		授業力の向上	授業スタンダード10の実践 ・授業のめあてと流れの提示 ・配色・ノートを意識した板書	A	
数学	学力の伸長	朝テスト・計算プリントを実施し、基礎基本をくり返し練習させる。	朝テストの合格率が75%以上	B	A
		生徒の学力に応じた適切な課題の提示と提出の徹底を図る。	課題提出率75%以上	A	
		数学検定を受検させる。また、その準備・対策をする。	受験者数のべ30以上、2級合格者5名以上	A	
		生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。	授業力向上週間で実施する授業アンケートで「授業を理解しているか」の項目について「理解している、だいたい理解している」が80%以上。	A	
理科	学力の伸長	学習意欲が向上する授業展開を行い、理科好きの生徒を増やす。【前期課程】	年間20以上の実験を行い、思考力、推察力を高め、意欲向上に繋げる。	A	B
		後期課程の物理、化学、生物担当教員による出前講座や、後期課程の授業への体験参加を通じ、後期課程に繋がる学習を意識させる。【前期課程】	出前講座の実施や、後期課程の授業への体験参加を実施する。	B	
		生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。(類きの早期発見)【後期課程】	授業力向上週間で実施する授業アンケートで「授業を理解しているか」の項目について「理解している、だいたい理解している」が80%以上。	B	
		基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。(振り返り学習や再テストの実施)【後期課程】	授業力向上週間で実施する授業アンケートで「授業を理解しているか」の項目について「理解している、だいたい理解している」が80%以上。	B	
英語	学力の伸長	朝テスト・小テストなどでつまずきを早期に見見する。	朝テストの合格率が80%以上になるように、努力させる。	B	B
		定期考査後、振り返り学習や補習・再テストをする。	補充プリント、模試ノートの提出などで十分な指導を実施する。	A	
		授業公開・相互評価を行い、授業改善に努める。	授業公開、相互評価を行う	A	
		英語を書いて自己表現する機会を与え、考査ごとにライティングの力を計るテストを行う	授業内または課題として指導。考査ごとにテスト実施する。	A	
		英語を話して自己表現する機会を与え、考査ごとにスピーキングの力を計るテストを行う	授業内または課題として指導。考査ごとにテスト実施する。	B	
		英語検定を全員1回以上は必ず受検させ、各生徒に応じた対策を行う。	生徒に受験を促し、対策を行う。	B	
		学力推移調査テスト/進研模試の事前事後指導を行う	十分な事前事後指導を実施する。	A	
		6年間の指導計画および「Can do list」をもとに、より効果的な指導を行う。	指導計画を見直し、より効果的な指導計画に改善する。	B	
保健体育	心身鍛錬の充実	体力の向上を重要課題として授業を展開し、生徒の体力向上を図る。	体力テストのTスコアが全学年50以上を達成する。	C	C
		体力テスト結果を教職員が共有し、生徒の体力向上を図る。	体力テスト結果(学年単位、部活動単位)を教職員に回覧する。	C	
道徳	公共心・規範意識の育成	全教師が協力して道徳教育を展開するため、各教科、特別活動、生徒指導との連携を密にし、学校の重点目標や学年指導の目標を達成させられるように道徳教育の全体計画を作成する。	全職員で全体計画を作成し、指導に生かす。	C	B
		前期課程については、学年ごとに道徳の授業の年間指導計画を作成し、副読本や心のノート等を活用して道徳授業を充実させる。	道徳授業の年間指導計画を作成し、道徳授業に生かす。	A	
		人権教育、同和教育の年間計画に基づいて副読本「生きるIV～V」等を積極的に活用する。	年間指導計画に基づいて、副読本を積極的に活用する。	B	
		中高一貫教育校の特性を生かした6年間のカリキュラムを作成し、差別や偏見のない学校・学級づくりを努める。	「差別や偏見のない学校や学級」を目指し、HR等で指導する。	A	
成果		評価Bが多かった。 国公立大学合格者が36名に達するなど、多くの生徒の進路希望が実現した。 陸上競技部、囲碁・将棋部が全国大会に、また特設水泳部が北信越大会に出場するなど、部活動でも活躍した。		B	